



4月のさろんテーマ

## 大都会の自治会・町内会

【ゲスト】菊池賢児さん（地域風景研究所所長）

大都市にふさわしい町内会のあり方…。必須なのにきわめられない。菊池さんの、4700世帯の連合町内会は、ひとつの自治体ほどの人口を抱えながら、住民目線でまちづくりを進めている。その工夫や苦労を伺います（以下、講演要約）

### ■連合町内会の活動

横浜市戸塚区は人口27万人です。退職して5年ですが、現役の頃から自分の地域の町内会長をして、10年たちます。いくつかの町内会をまとめて連合町内会となりますが、私の踊場地区連合町内会は14の町内会で4700世帯。この連合町内会長もしています。

ここでは1300人くらい集まる町内会対抗運動会をやり、夏に水泳教室やソフトボール大会、秋におでんなどの屋台もでる文化まつりをやります。地域防災訓練もあります。

また、高齢者ふれあい昼食会、グランドゴルフ大会、高齢者からの要望に30分200円でお手伝いする“ちょこっとボランティア”、芋掘りトン汁大会、遠足、そうめん流し大会、潮干狩り、小学生の通学見守り“学援隊”などなど。たくさんの活動をしています。

### ■特色ある活動や大規模店舗との交渉も…

特色ある活動を挙げます。地域で居場所が見つからないのは中学生なんです。中学生と地域の交流“チャレンジフェスティバル”で、地域住民と一緒にグランドゴルフやソフト・バレーボールなどやっています。

赤ちゃんの面倒を一緒にみながらお母さんを元気づける子育て支援のサロンを月2回やります。戸塚高校文化祭には“踊場饅頭”店を出す。これは好評で高校から今年もまたよろしく、と依頼が来る。高校生と一緒に花壇も作っています。

3年前には地域内に大型電気店がいきなりオープン。地域住民にとっては車の増加が一番の心配ごとです。大店法をベースに協議を10回以上。オープン後2週間の交通監視もしました。

大型店でもあり、法律通りにやっているのですが、「もう少し環境に配慮してほしい、何かあったら協議をする」などの覚え書きを結びました。これはなかなかできないことだと横浜市からほめられました。

### ■他の地域の事例を調べてヒントに

町内会に必要なことは「安心して暮らす」、「人と人がつながるまちをつくる」の2つです。

「安心して暮らす」とは、ライフステージに配慮した課題解決に取り組むということで、いま力を入れているのは青少年の育成と子育て支援、高齢者支援です。

「人と人がつながる」は、住民が同じ安心感と危機感

を持ち、ふるさと意識を持つこと。一人の課題はみんなの課題、一人の誇りはみんなの誇りの気持ちをもって、次代のまちを豊かにすることをめざす。

具体的やり方は、よいものを守る、足りないものは加える、問題点は取り除く、の三つ。シンプルです。

まちとは何かといえば、土地、建物、道路、交通、公園・緑地、上下水道、町並み。これを頭に入れ、現状を知る、聞く、感じる、発見することをやっています。大事なものは、同じ問題に他はどんな取り組みをしているか、事例を調べることです。

例えば泉区では地下鉄駅ができて、路線バスが廃止になり、地域運営のバスを走らせている自治会がある。栄区では空き家になった家を親族の許可を得て、地域サロンにしている。瀬谷区では親に風呂の入り方、ご飯の食べ方も習っていない子どもたちに一から生活の仕方を教えているNPOがある。すぐ同じことをするわけでもなく、こういう事例が参考になります。

### ■地域プランとマップづくり

区役所に地域のプランと一緒に作ってくれといても返事を濁される。そこで地域では、長期的課題、短期的課題に分けて話し合いを進め、高校生の通学安全環境づくりや新たなごみ置場の設置など実現した。

また、町内会長、小中高校長、地区社会福祉協議会、警察、施設管理者40名が集まるまちづくり連絡会をつくりました。横・横の情報交換と問題共有は大事です。学校関係の事故情報や簡単なボヤ情報などがわかって、地域でもいろいろな対応ができます。

今は地域でマップ作りを検討中です。保全すべき緑、祠、ホッとできる場所、消防車が入りにくい所などの地図を作り情報共有したい。一方昨年小学6年生たちがまちのガイドブックを作ってくれました。子どもたちは自分たちで資金を集め、手作りの報告書を100冊作った。子どもの素直な目が地域の現状を捉えていて、住民はとても喜んで受け入れました。

### ■現状に合わせてやり方を変える

役員任期は2年と聞けば、誰でも尻込みするから担い手不足になる。要は活動に参加してくれる人がほしい。それはいつも同じ人でなくてもいい。

活動に短期参加を容認するかどうかを調査して、地域活動ガイドブックを作り、これを参考にして自由に参加してもらう。これで活動参加経験者が増え、いざ役員まで引き受ける人も出てくることを期待する。

要は現状にあわせてやり方を工夫することです。そして多数決はとらないこと。そして誰の顔もつぶさないこと。これがコツです。

(2014年4月15日)